

様式11（オプション）

子ども像（仮説）共有シート

氏名 旭 川 一 郎

個別の支援計画（様式8）の作
トマップ（様式7）を参考に検討

「ノートがうまくとれない」ことの改善により
学習意欲の向上が図られれば、
「副次的に忘れ物が減る」という仮説を立てることなどにより
改善・克服を目指す課題の優先順位を検討します。

改善したい気になること・苦手なこと

優先順位	1	ノートをうまくとれない。
	2	忘れ物が多い。
	3	

気になること・苦手なことの背景



（なぜ課題が顕在化しているか？）

本人にある実態	上記順位	人や場面との関連
- 文章の読み取りが苦手である。 - 机上の整理整頓ができていない。 - 一定の姿勢保持が困難である。 - 苦手な学習が多く学習に意欲を持つことができない。	1	視覚的な刺激や聴覚的な刺激に反応しやすく注意が散漫になる。
- その時にやりたいことが優先される。 - 時間割が書かれた学級通信をなくす。 - 自宅自室の整理整頓ができない。	2	家族からの声かけで教科書などをしぶしぶ準備するが保護者は確認していない。
「課題が顕在化している背景」を検討・整理することは、 個別の支援計画の作成に向け 欠かすことのできない作業になります。		

改善に向け生かせそうなよさ・できること

上記順位	1	- 漢字を書くのが得意である。 - 刺激の少ない環境では比較的集中が持続する。 - 勉強がわかるようになりたいと思っている。
	2	- 決められたスケジュールを守ることができる。 - 学校でほめられると得意気な顔で母親に報告する。
	3	支援の手立てに生かすことを念頭に、改善を目指す課題に関連した 「よさ・できること」を検討・整理します。